

2020年度 埼玉東上地域教育プラットフォーム高等学校調査報告書

調査年度：2020年度

調査対象高等学校：プラットフォーム参加大学・短大による高等学校訪問でデータ提供した高等学校（非公開）

調査対象：2020年3月卒業生

報告者：山岡香苗（東邦音楽大学）

報告日：2020年10月23日

1.高等学校への調査目的

埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)では、地元生まれ育った人が、地元で学び地元で活躍できる地域づくりに貢献することを目的に活動を行っている。そこで、TJUP参加大学・短大近隣の高等学校におもに依頼し、地域の高等学校のニーズを把握し、今後の方針・展開を検討するために以下の調査を行った。

2.調査結果

1)埼玉県内大学・短大への進学率

調査した高等学校の大学・短大進学率は平均して45.1%であった。2019年度の調査結果ではあるが、大学・短大進学率（現役）の全国平均は58.1%であり（文部科学省令和元年度学校基本調査）、今回の調査高等学校の進学率は全国平均よりも13ポイント低い結果であった。

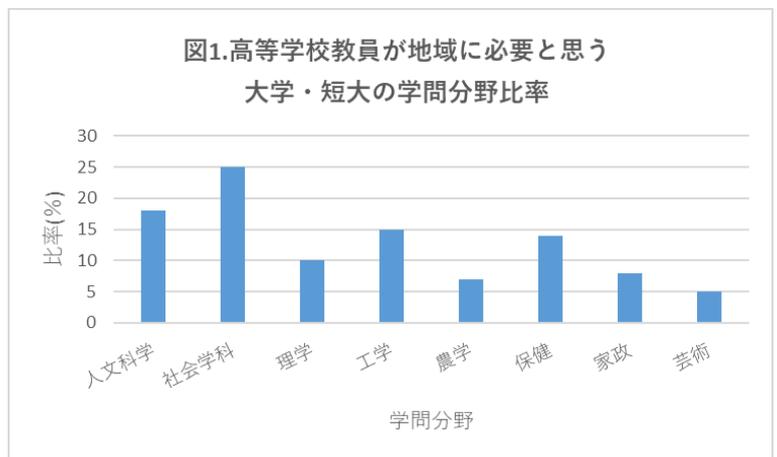
さらに調査対象高等学校から埼玉県内(埼玉東上地域)の大学・短大への進学率は26.4%と非常に少ない。

自県内大学に進学した全国平均は43%であり、埼玉県の高校生は他の地域にある大学へと進学する傾向が顕著であることが明らかになった。

2)地域に必要な大学・短大の学問分野

高等学校に、埼玉県に必要な大学・短大の学問分野を聞いたところ、図1のような結果となった。人文科学・社会科学といった文化系学問の比率が多く、また理科系学問では工学や医療・保健といった実社会に役に立つ学問へのニーズが高等学校教員側では大きいことがわかった。

では実際に、高校生が進学した学問分野について調査した結果が図2である。図2からは、社会科学分野に進学する高校生の割合が、高等学校教員側が望む進学率よりも非常に多いことがわかる。社会科学分野には、法学・政治学・経済学・経営学・社会学が当てはまり、昨年度の本調査と比較しても、同分野への進学率がかなり多い結果となっている。これは、景気などの社会情勢の影響なのか、継続的に調査する必要がある。

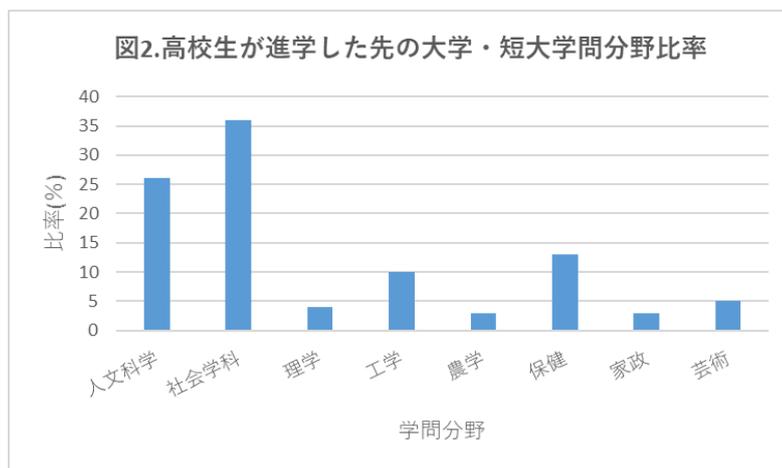


3)大学・短大との連携

現在までに行っている高大連携について調査したところ、

- ・授業体験 ・実習体験 ・講演会
- ・連携講座 ・幼稚園実習 ・上級学校訪問
- ・栄養講座

といった、主に将来の進路意識を高める観点での連携が挙げられた。



4)埼玉県の大学・短大への期待

埼玉県の大学・短大に対する期待を自由回答で記載してもらったところ、

- ・合同説明会を多く開催してほしい。
- ・地域に根差した手厚い就職支援、就職実績の向上。
- ・東京に通学しなくても多くの学問が学べる総合大学や大学連携があると良い。コロナ禍を機に「地方」それぞれの研究拠点を設置してほしい。
- ・コロナ禍において県外への移動が懸念される中、受験生の県内志向も出てきている。「埼玉県内で、地元で」という意識を持たせられるような取り組みに期待している。
- ・地元への進学希望が多く、益々の発展に期待している。
- ・地域の活性化や発展に貢献できる人材育成をしてほしい。
- ・研究力の向上。
- ・医療の充実。
- ・進路を拓く学び、交通アクセスの良さ。
- ・行事交流の推進、円滑な高大接続。
- ・学生と生徒の交流事業。
- ・さまざまな形で大学から情報提供いただき、生徒の進学意欲を高めたい。
- ・地域で活躍できるリーダー育成を実現するため、東上地域の大学に大いに期待している。

といったさまざまな貴重な意見が得られた。

3.まとめ

TJUP 参加大学・短大は高等学校教員が地域に必要なと思っている学問分野を有しており、その比率もニーズと合致している。これから、TJUP 参加大学・短大と、地元の高等学校との話し合いを密に行い、高校生が地元の大学・短大に進学したいと思える、教育の「見える化」を進める為にこれまで以上の連携方法を検討する必要がある。